

賛助会北信

令和5年3月14日発行

第 139 号

(公財)長野県長寿社会開

発センター北信地区賛助会

発行者：前澤 政宏

卯年を迎えて早3か月、今冬の雪も思ったより少なめで生活も少しは楽だったことと思います。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻に世界は翻弄され続けています。新型コロナウイルスも3年の長きにわたって世界中の人々を苦しめてきましたが、ようやく先が見えてきたようで、これからの私たちの生活のあり方について政府も動き出しています。「兎年は荒れる」という話を聞いたことがあります。そういえば東日本大震災も兎年、今年はトルコの大地震、温和な兎にあやかって穏やかな年になって欲しいと切に思うものです。

さて、1月30日(月)に長野県長寿社会開発センター地区賛助会連絡協議会がオンラインで開催されました。私、前澤は都合で欠席、寺島副会長と金井副会長が出席しました。令和5年度の賛助会関係事業についてお知らせします。

賛助会員募集・活動推進事業 賛助会員の加入促進・会費関係郵送等

地区賛助会運営費交付事業 地区賛助会活動や賛助会員グループ活動の推進

私たち北信地区賛助会には定額分100,000円と170円×会員数が交付されます。これは交流事業であるマレットゴルフ、ペタンク、ゲートボール、信濃の国を巡る旅や各市町村支部活動に出費されます。

地区賛助会連絡協議会運営事業 賛助会員の社会参加活動等の円滑な推進を図る

賛助会員グループ活動支援事業 グループの活動を円滑かつ積極的に推進するため、活動に要する経費について交付金を交付 基礎交付額1,000円×会員数 加算額300円×会員数 会員数とはA会員 加算額は年5回以上社会貢献活動の実績が必要

地区賛助会グループ立ち上げ給付金事業 グループの新規設立時に給付し、社会参加活動を促進する。1グループ毎10,000円 但しA会員が5人以上

以上5項目の事業の財源の6割が賛助会員の会費で賄われています。

この他、情報誌「りらく」の発行送付関係に228万円が会費から充てられています。

私たち賛助会員は、基本的にはセンターの応援団ではありますが、それだけでは寂しい。やはり生きがいと居場所を求めて、グループ活動や交流活動等に積極的に参加して、後期高齢者なんて言わず老春(旬?)を謳歌し人生100年時代を築きたいものですね。

令和4年度 知事表彰(社会福祉表彰)及び長野県長寿社会開発センター表彰

おめでとう!



さて、今年度もコロナ禍の中、顕彰者には信州ねんりんピック大会中に大勢の会員の見守る中での受賞になるはずでしたが、叶わず12月7日(木)飯山庁舎で長瀬有紀北信保健福祉事務所長より伝達されました。

なお、推薦理由は推薦者中沢智子支部長の理由書を転記しました。

知事表彰のシニア東会代表の**寺島進**さん(中野支部所属:写真左)

10年の長きにわたり、環境美化活動や歩道の花壇整備等のボランティアを地道に行うことで地域社会に貢献するとともに、地域住民のみならず、地域を訪れる観光客や歩行者に「癒し」を提供し景観保持に寄与している。また10年以上毎朝子どもたちの登校見守りを続け、青少年の健全育成に多大な貢献をしている。

センター表彰**峰村真**さん(飯山支部所属:写真右)

平成15年の加入後から積極的に賛助会活動に参画し、平成26年4月から現在に至るまで8年と数か月の長きにわたり、地区賛助会幹事として賛助会事業に尽力している。賛助会グループ「ゆりの会」においては立ちあげ当初から現在に至るまでグループ長としてパソコンの知識技術向上をはかりながら、会員相互の生きがいつくりと居場所つくり尽力している。

令和5年度の交流会等行事予定は、6月7日(水)の総会において決定されます。本年度は「信濃の国を巡る旅」は中止しましたが、各支部主管によるスポーツ交流会は予定通り実施しました。令和5年度は可能な限り努力して、「信濃の国を巡る旅」を復活させたいと思っています。新入会員の皆様は会員として仲間と交流するいい機会です。奮ってご参加ください。7月の会報でお知らせする予定です。

6/7(水)総会 飯山市文化交流館なちゅらで開催 各支部を通して案内する予定です。大勢の出席をお願いします。

北信地域タウンミーティング「サロン（通いの場）サミット in 北信」開催！！

令和5年1月27日（金）飯山市文化交流館なちゅらにて、北信地域タウンミーティングを開催しました。

近年、高齢者の通いの場の重要性が注目されていることから「サロン（通いの場）サミット in 北信」とし、管内6市町村から1事例ずつ紹介してもらいました。



中野市からは『憩いの場 縁側』を開いた大熊区の酒井忠雄さん。社協主催の「まちの縁側講座」をきっかけに、自宅を開放し始めました。地区内外の方々がいつでも来てもらえる『場』、「ゆるいつながり」が持てる『場』を目指しています。

飯山市からは『瀬木集落サロン』を主宰している木原喜美子さん。縁側のような場所を月1回でも開き、地域への感謝の気持ちをカタチにしたいとの思いから開いた『場』です。ここは男性参加者が多いのも特徴です。

山ノ内町からは『星川お元気会』を立ち上げた宮崎フサ子さん。星川区になかったサロンを一から勉強し、2006年に立ち上げ17年目。自宅で始めたサロンも、年数を重ねるごとに参加者が増え、場所も広い所へ移動し、世代交代しながら活動を続けています。

木島平村からは『ふるさとサロン』を主宰する林春江さん。介護予防の体操、脳トレ、ゲーム、歌、おしゃべり…週1回開催のこのサロンには、平均15人前後の参加者が毎回集います。笑い声が響き、楽しい雰囲気があふれる『場』となっています。

野沢温泉村からは『高野辰之とラジオ体操』を動画で紹介しました。365日毎朝6時半、雨の日も雪の日も休まずラジオ体操を続ける方々。終わってからのおしゃべりやお茶飲みもあり、ここはラジオ体操のみならず、プラスαがある『場』のようです。

栄村からは『森ふれあい会』の代表の栗原千恵さん。2011年3月の地震をきっかけに、最初はお茶飲みの場として始まった会。現在は、冬期間も休むことなく、手芸や体操を取り入れた地域の居場所となっています。

当日は約100名の参加者があり、事例紹介後には旗上げアンケート方式で会場一体となったディスカッションが行われ、内山二郎氏のファシリテーションにより参加者の声も引き出すことができました。

またロビーでは、地域での活動紹介ポスター展示が行われ、参加者の方々は足を止めて見入っていました。

参加者からは「春になったら自分も通いの場を立ち上げたい」とか「各地域の生の声が聞けて良かった」などの声が寄せられました。

来年度も賛助会員の皆さまには支部事業の講演会などのお声がけを致しますので、ご家族やご友人をお誘いの上ご参加ください。

